

1 学校教育目標	
○ 教育方針	社会的・職業的自立に向けて、社会の一員として求められる意識や態度及び豊かな人間性を備えた生徒を育成する。
○ 教育目標	1 「協感」・・・自他を大切にし、互いに思いやり、高めあうこと 2 「協学」・・・将来を見据え、仲間とともに真摯に学ぶこと 3 「協働」・・・仲間と協力しながら、主体的に行動すること
○ 重点目標	1 規範意識と豊かな人間性を育てる教育の推進 2 生徒の実態に即した学習活動及び資格取得の推進 3 地域と連携し、地域に貢献する開かれた学校づくりの推進とキャリア教育の充実 4 山口県立山口農業高等学校との連携の推進

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
[学校運営]	・山口農業高校西市分校化へ向けて、地域とともにある西市高校の良さ伝統を引き継ぎながら、特色ある新しい教育内容の周知・広報を行っている。 ・引き続き、地域連携・地域貢献に積極的に取り組むことで、地域に唯一の高等学校として「地域に愛され地域とともにある学校づくり」を進めている。
[学習指導]	・相互授業参観、授業評価を実施し、授業改善に取り組んだ。グループワーク、ICTを活用した授業改善が図られ、一定の成果が得られた。今後、アクティブ・ラーニングの取組をさらに進めて行く。
[生徒指導]	・昨年、「西市高校・西市分校に来て良かったと思える学校生活の実現」を重点目標に掲げ、全教職員が生徒の「夢の実現(進路の目標達成)」に向けて支援したことにより生徒との信頼関係が深まったこと、担任教諭を中心にクラス・クラスの仲間を大切にクラス経営によりクラスの雰囲気良くくなり、思いやりが深まったことで、全校生徒が自己の夢の実現に向けて充実感のある学校生活を送ることができている。
[進路指導]	・生徒の資格取得に対する意欲の向上がみられ、英検や漢検、危険物などの資格に積極的にチャレンジしようとする生徒が増えつつある現状を踏まえ、この傾向を一層推進していく。 ・昨年度は、久々に大学入試センター試験を受験する生徒がでた。少しずつであるが、向上心を持って進路を実現しようとする生徒の姿勢をサポートする指導を行う。
[健康安全環境]	・安心・安全な学校づくりに力を注いでいる。治癒勧告については、保護者と連携し、引き続き粘り強い指導を行っていく。防火・防災訓練においては、一定の成果があるよう努めている。
[生産流通科]	・グリーンライフの授業等で下関農林事務所と連携し、地域農業の見学、農林事務所職員による講義等を定期的実施した。梨農家への援農インターンシップにおいても、大きな成果が得られた。今後も、内容等の充実を図り、地域と密着した取組を進める。
[事務]	・日常点検を実施し、安心・安全な学校づくりの取組の推進が図れた。今後とも、日常点検の習慣化に向け努力したい。
[学年]	・基本的な生活習慣の定着に学年団で粘り強く取り組んでいる。また、生徒指導課と連携しながら、秩序と安定性のある学校生活が送れるよう努めている。
[業務改善]	・望ましい職場環境が保たれ、教職員が連携・協力し合いながら業務の遂行ができていく。今後も、在校等時間の適正な把握やサーバー内の整理等、常に意識を持って業務の効率化を図る。 ・分校化に伴い教員定数の削減が避けられないことを踏まえ、分掌業務の整理や精選、学校行事等の見直しを進める必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
[学校運営]	・分校化(総合学科設置)を踏まえ、これまで築いてきた地域連携という西市高校の強みを継承した新しい学校の魅力や方向性を明確にするとともに、積極的に情報発信を行うことで学校教育の活性化を図っていく。
[学習指導]	・進路指導課と連携し、基礎力タイムや確認テストの内容や取組を改善し、基礎学力の向上並びに学習習慣の確立を図る。また、授業への取組姿勢の評価や、アクティブ・ラーニングの取組を進め、授業改善を積極的に行う。県立高校再編整備計画に対応した教育課程の編成にも計画的に取り組む。
[生徒指導]	・生徒の夢を叶えることにより、西市高校・西市分校に入学して良かったと思われる、学校生活の実現を重点目標として、全教職員の共通認識を深め、一人ひとりを大切に生徒指導を図る。いじめや問題行動の未然防止を図るとともに、早期発見・早期対応により保護者、地域に信頼される生徒指導を行う。また、研修等とおして、人権教育、情報モラル、教育相談、発達障害等の特別支援教育の理解と促進を図り、教職員の資質を高める。
[進路指導]	・下関市立大学の入試改定に対応し、小論文指導を充実させる。卒業時まで「一人一資格以上の取得」を掲げ、あらゆる機会をとらえて資格取得を推進し、基礎力タイムと基礎力まとめテストなどをとおして全体の基礎学力の底上げを図る。総合的な探究の時間等や、総合学科の産業社会と人間の時間を活用して、低学年のうちから進路実現に向けたキャリア教育を充実させる。
[健康安全環境]	・校内美化や健康安全環境能力の醸成のため、委員会活動をさらに充実させる。治癒勧告については、今後も保護者と連携し、生徒の健康安全に向けて指導の徹底を図る。
[生産流通科]	・地域と連携した特産物の開発を継続して行うなど、地域や関係機関等と連携した教育活動を実践する。生徒の実践力を高め、地域と連携し、地域農業の理解や地域貢献を念頭に置いた教育内容を充実する。また、進路と連携させて、資格取得の向上を図る。さらに、少人数に対応する魅力ある農場づくりの検討を行う。
[事務]	・安心して通える学校づくり推進のための、施設、設備等の日常点検、定期点検の実施に努める。
[業務改善]	・整理整頓、日常的な業務のノウハウの蓄積、業務年間スケジュールの可視化等により業務の効率化を図る。 ・在校等時間の適正な把握を進めるとともに、年次有給休暇取得率の向上させる。
[チャレンジ目標]	・「相手を思いやった言葉遣いを身に付ける」

A:優れている B:よい C:おおむねよい D:要改善

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	○組織的な地域連携・地域貢献の推進	・昨年度の実践を継続するとともに、学校と地域が一体となった地域貢献活動の充実を図る。	4 組織的な体験活動を実践し、生徒の成長が大きく見られた。 3 組織的な体験活動を実践し、生徒の成長が見られた。 2 組織的な体験活動を実践したが、生徒の成長があまり見られなかった。 1 組織的な体験活動を実践できず、生徒の成長がほとんど見られなかった。	3	本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りの活動体験は出来なかったが、マスクの作成及び社会福祉協議会への寄付や老人福祉施設の清掃ボランティアなど、地域との連携活動を、できることから始めており、そのような活動を通して生徒の成長が見られた。	・情報発信活動を含めて、今後も積極的な取組を期待する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、当り前の活動が出来ない中で、「できること」を考え、活動を進められたことは素晴らしい。	B
	○学校情報発信の充実	・「西市高校だより」や学校HPのコンテンツの一層の充実を図り、積極的な情報発信に心掛ける。 ・マチコミメールと学校ホームページの連携を強化し、保護者等に対する情報発信を推進する。	4 学校評価アンケートによる肯定的評価を95%以上であった。 3 学校評価アンケートによる肯定的評価を90%以上であった。 2 学校評価アンケートによる肯定的評価を85%以上であった。 1 学校評価アンケートによる肯定的評価を85%未満であった。	3	年間を通してホームページの更新を充実させることが出来た。また、学校だよりの配布を近隣中学校の3年生全員に拡大する等、情報発信を充実させることが出来た。学校評価アンケートの結果は、91.9%となり、着実に成果を伸ばすことが出来た。	・学校評価アンケートも一定の評価を受け入れる事から、良い形での情報発信をされていると感じる。 ・手作りマスクをラッピングされた物を頂いた。職員もお年寄りも喜んでいた。 ・学校だよりがカラフルになり読みたくなる作りとなっている。	
学習指導	○基礎学力の充実	・基礎力タイムを設定し、基礎学力の向上を図ると共に、落ちついて学習に取り組む習慣を身につけさせる。	4 落ちついて学習に取り組む習慣が十分身に付いた。 3 落ちついて学習に取り組む習慣がある程度身に付いた。 2 落ちついて学習に取り組む習慣が60%以上行われた。 1 落ちついて学習に取り組む習慣がまったく身に付かなかった。	3	毎日の取り組みも定着して、取り組み習慣は十分付いた。今後はこの活動が学力に結びつくようにしていきたい。	・アンケートによると内容に対して一定の不満足との回答があるが、基礎学力の向上対策や相互授業参観などの取組には敬意を表する。 ・「わかる授業」という生徒の立場に立った取組もさることながら、保護者の方々の教育に対する意識も高いことから、興味を持たれる取組をされていると感じた。	B
	○「分かる授業」の展開	・他校の教員、保護者や地域の方を対象とした授業公開を実施する。 ・わかる授業が展開できるように教員間での授業参観を実施する。	4 教員の相互授業参観が80%以上行われた。 3 教員の相互授業参観が70%以上行われた。 2 教員の相互授業参観が60%以上行われた。 1 教員の相互授業参観が60%未満であった。	4	本年度は、教員による授業の相互参観を2回計画、実施した。また、オープンスクールにも多数の参加者があり、研究授業等も実施された。	・毎日の取り組み習慣が、今後も続くことを期待する。 ・毎日の取組が定着されていて良い。「毎日の授業が理解できている」に対する評価が9割なのは素晴らしい。	

生徒指導	○西市高校・西市分校に入学して良かったと思える学校生活の実現	・授業の挨拶を「先言後礼」で全員できちんとやることで、信頼関係を築く。 ・授業の挨拶を「先言後礼」で全員できちんとやることで授業を充実させる。	4 授業前後の挨拶の教員評価が80点以上であった。 3 授業前後の挨拶の教員評価が70点以上であった。 2 授業前後の挨拶の教員評価が60点以上であった。 1 授業前後の挨拶の教員評価が60点未満であった。	3	「先言後礼」の挨拶の目標は2年目になり、「西市高校」から「西市分校」へ引き継ぐ伝統とすることを狙いとして生徒会とも連携して取り組んだが、十分に目標を達成することはできなかった。引き続き西市分校の目標として取り組んでいきたい。	・挨拶励行やいじめ撲滅等は、今後の社会生活においても基本となる部分であり、継続的な取組が求められると思う。 ・いじめに対する対応が、「わかった時にすぐに動いて対応する」という事はとても大切だと思う。何かあった時「先生に相談すれば何とかしてくれる」という意識を持ってくると、次に起こった時に対応がしやすくなると思う。 ・思春期の生徒たちの心の変化を見逃さないでほしい。	B
	○教育相談を充実させ、いじめを根絶する	・いじめ・Fitアンケートを各学期に実施し、早期の実態把握に努める。 ・朝の校門・バス停指導、昼休みの巡視により生徒の生活状況の把握に努める。 ・職員会議の情報交換会・学年会等により生徒の情報の共有に努める。	4 いじめに関する問題行動が0件であった。 3 いじめに関する問題行動が1件であった。 2 いじめに関する問題行動が2件であった。 1 いじめに関する問題行動が3件以上であった。	2	9月と11月にいじめに関する問題行動が発覚したが、初期段階で対処できた。また、いじめ対策委員会での今後の指導を検討することで、加害生徒の指導、被害にあった生徒の支援を組織的に実践することができており、成長を促すことができています。	・いじめ防止の取組は大変と思うがこれからもよろしく願いたい。また、発達障害への理解も深めてほしい。	
	○クラスと仲間を大切にすることを育てる。	・ビーイングを活用し、仲間とクラスを大切にすることを意識付けする。 ・「嬉しかった言葉の木」を作成して相手を思いやった言葉遣いを意識させる。 ・「実りの木」を作成して成功体験を振り返ることで自信をつけさせ、思いやりの心を引き出す。	4 相手を思いやった言葉遣いの教員評価が80点以上であった。 3 相手を思いやった言葉遣いの教員評価が70点以上であった。 2 相手を思いやった言葉遣いの教員評価が60点以上であった。 1 相手を思いやった言葉遣いの教員評価が60点以上未満であった。	3	6月の「嬉しかった言葉の木」、12月の「実りの木」では、「思いやりの言葉」「感謝の言葉」を表現することができ、言葉・言葉遣いの大切さを気づかせることはできた。今後は日常生活の中で、思いやり・感謝の言葉を生かすことを課題に取り組みたい。		
進路指導	○卒業予定者全員の早期進路の確定	・早い時期から、生徒、保護者に適切な情報を提供し、積極的に働きかけることにより、主体的な進路決定を支援する。 ・進路希望調査をもとに積極的に企業訪問等を行い、生徒の進路希望をかなえる努力をする。	4 年内に全員の進路が確定した。 3 年内に進路が確定しなかった者が1人いた。 2 年内に進路が確定しなかった者が2人いた。 1 年内に進路が確定しなかった者が3人以上いた。	3	すべての生徒が第一希望の進路先に決定できた訳ではないが、大半の生徒、保護者の希望に沿った進路先を決めることができた。	・資格取得やキャリア教育の特色が、そのまま学校の特色にも直結すると感じているので、生徒数確保の観点からも、さらなる充実が望まれる。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の中、思うようなキャリア教育の推進は容易ではなかったと思う。 ・大半の生徒が希望の進路先に決定したことがうれしく思う。	B
	○資格取得の推進と基礎学力の底上げ	・進路に応じて、課外や、資格取得に積極的に取り組ませ、卒業時には全員が何らかの資格を取得できることを目指す。 ・3年間を通して、計画的に、就職試験に対応できる基礎学力を養成する。	4 卒業時には資格取得率が9割以上であった。 3 卒業時の資格取得率が7割以上であった。 2 卒業時の資格取得率が5割以上であった。 1 卒業時の資格取得率が5割を切った。	4	ここ数年、生徒の資格取得に対する意識が高くなりつつあり、各種検定にチャレンジするものが増えている。 基礎力タイム、基礎力まとめテスト、一般常識テストなどを積み重ね、基礎力の充実に努めた。		
	○キャリア教育の推進	・3年間を見通してキャリア教育を推進し、インターンシップ、ボランティア活動を通じて、適切な職業観を育成する。	4 インターンシップ、ボランティア活動に9割以上の生徒が参加した。 3 インターンシップ、ボランティア活動へ7割以上の生徒が参加した。 2 インターンシップ、ボランティア活動へ5割以上の生徒が参加した。 1 インターンシップ、ボランティア活動への参加者が5割未満であった。	1	1, 2学期はコロナウイルス感染症拡大により、インターンシップやボランティア活動等の校外活動はほとんどできなかった。しかし2学期末から3学期にかけては感染対策に配慮しながら、少しずつ進路ガイダンスや、講演会を実施して成果をあげた。		
健康安全	○自主的に健康管理のできる生徒の育成	・定期健康診断後の受診勧告について、生徒の実情に即した指導を継続的・組織的に行う。	4 受診勧告生徒の受診率が50%以上であった。 3 受診勧告生徒の受診率が30%以上であった。 2 受診勧告生徒の受診率が20%以上であった。 1 受診勧告生徒の受診率が20%未満であった。	3	現在の受診率は37.1%である。10月、12月と2回個人面談を実施し状況把握及び指導を行った。今後も継続指導し、実情に応じた受診率の向上を図る。	・様々な事情があるにせよ、健康診断による要受診者の受診率は高めるべきだと考える。 ・受診勧告生徒の健康診断受診率は親の意識が大切だと思う。生徒自身の意識ももちろん必要であるが、その親に対しての意識改善指導をさらにお願したい。 ・感染予防対策は大変な苦勞をされたことと思う。 ・感染対策がきちんとされていると感じる。外部の対応も大変だと思う。	B
	○安全な環境について考え、実践する力の育成	・生徒保健委員会活動の一環として教室内外の日常点検を確実に実施する。	4 70%以上の生徒が教室内外の良好な環境に関する意識が高まった。 3 60%以上の生徒が教室内外の良好な環境に関する意識が高まった。 2 50%以上の生徒が教室内外の良好な環境に関する意識が高まった。 1 50%未満の生徒しか教室内外の良好な環境に関する意識が高まらなかった。	4	感染予防対策の換気を含め、生徒の意識は向上した。保健委員による日常点検について、実施の定着に向けて、生徒が点検の必要性を理解できるように今後も努めていきたい。		
	○安全管理の推進	・実践的な防災訓練の実施 ・安全点検を年3回実施し、事後処置も適切に行う。	4 教員、生徒の防災に対する危機意識が十分向上した。 3 教員、生徒の防災に対する危機意識がある程度向上した。 2 教員、生徒の防災に対する危機意識があまり向上しなかった。 1 教員、生徒の防災に対する危機意識がまったく向上しなかった。	3	予定通り避難訓練を実施している。2学期は日時をあらかじめ知らせない方式による訓練を実施し、落ち着いて避難することができた。		
生産流通科	○時代の変化に対応した特色ある教育課程の編成	・新学習指導要領に対応した農業科目の評価基準を各科目で作成する。	4 新学習指導要領に準拠した学習評価基準の作成が8割以上できた。 3 新学習指導要領に準拠した学習評価基準の作成が6割以上できた。 2 新学習指導要領に準拠した学習評価基準の作成が4割以上できた。 1 新学習指導要領に準拠した学習評価基準の作成が2割以下できた。	2	科目「農業と環境」を軸として、評価のポイントなどを再検討している。現在、科目「農業と環境」科目「課題研究」及び科目「総合実習」で新学習指導要領に準拠した評価基準を作成中であるが、内容的にはまだ検討を続ける必要がある。	・農業系の教育の充実により注力をお願いしたい。 ・農業をやりたい生徒達への道の提案も難しいと感じる。労使間の想いの違いもある。	B
	○分校化に対応した新しい農場運営	・総合学科の設定科目に合わせた新しい農場運営について再検討する。	①設定履修科目の再検討 *一つできるごとに1ポイント ②地域連携の再検討 ③新しい農業技術の活用について再検討 ④「生産流通科活動記録」の再編集について検討	3	①について新年度入学生用の履修科目について検討した。 ②については、感染対策を行っただうえで、できるかぎり少人数編成で計画を立て、地域に要望していく。また、不特定多数の方への販売実習はしばらく様子を見ることにした。 ③について、今年度は、科学部(農業部)でドローンの活用による環境整備について取り組んだ。 ④農業系列のみでの活動記録編集を計画している。		
事務	○安心して通える学校づくりの推進	・施設・設備の老朽化などに起因する事故の未然防止のため、事務室関係職員による施設設備の定期的な点検を実施する。 ・学校全教職員の日常点検(目視)を習慣化する。	4 日常点検を徹底し、早期補修を行った。 3 日常点検を実施し、一定期間内に補修を行った。 2 日常点検が実施したが、一定期間内に補修ができなかった。 1 日常点検が不十分で早期補修もできなかった。	3	日常点検を実施し、可能なものについては補修を行ったが、予算の制限でできなかったこともある。	・限られた予算の中で苦勞が多いと思われませんが、学校内における安全性の確保は必須であり、危険度や緊急度に関して優先順位をつける対応をお願いしたい。 ・安心して通える学校づくりを期待したい。	B

一 学 年	○基本的 生活習慣 の確立	・授業や学校行事等において 自主的に集めたり状況に応 じた行動等ができるように取り 組ませる。	4 自主的な行動が80%以上できた。 3 自主的な行動が70%以上できた。 2 自主的な行動が60%以上できた。 1 自主的な行動が60%未満であった。	3	教室移動・全体集合等で自主 的に移動できたが、集合時に若 干時間がかかることがあった。	・日頃の生活や、学習に関 しては重点目標をほぼ達 成している。今後の進路目 標について、農業系への 働きかけも特段の配慮を お願いしたい。 ・意識付けは生徒本人が 意識しないと出ないと思 うので、取組が素晴らしい だと思う。休業期間中の先 生方の取組で、生徒との 信頼関係が築けたことが 大きいと感じた。 ・「まじめ」な事はいいこ ただと思う。今後の活躍を期 待したい。 ・入学してからの休業で生 徒の心が心配だった。先 生方のケアや学校の取組 を評価したい。	B
	○基礎学 力を定着さ せる	・基礎力タイムにおいて各自 が自覚をもって取り組ませる。	4 基礎力確認テストの1回目で80点以上が18名以上であった。 3 基礎力確認テストの2回目(再テスト)で80点以上が取ることができた。 2 基礎力確認テストの3回目(再テスト)で80点以上が取ることができた。 1 基礎力確認テストの4回目(再テスト)で80点以上が取ることができた。	3	日頃の取り組みは各自が真剣 に取り組んでおり、事前に意識付 けをすることで、2回目で合格す る生徒がほとんどであった。		
二 学 年	○基本的 生活習慣 の確立	・授業・HR・特別活動など様々 な機会に先言後礼に取り組ま せる。	4 先言後礼が90%以上できた。 3 先言後礼が80%以上できた。 2 先言後礼が70%以上できた。 1 先言後礼が70%未満しかできなかった。	4	毎日の積み重ねによって先言 後礼が定着してきた。今後も引き 続き指導していきたい。	・重点目標に対する達成 度が概ね良好であり、進 路目標についても大多数 が明確になっているよう だが、今後の変更にも柔軟 に対応していただきたい。 ・今後の活躍を期待し たい。進路目標に向かって 頑張ってもらいたい。 ・生徒、保護者、教員が出 したあ評価に、充実してい る様子がよく分かった。	B
	○基礎力 タイムの充実 による基礎 学力の定着	・課題の達成度をチェックす る。	4 課題の達成度が90%以上であった。 3 課題の達成度が80%以上であった。 2 課題の達成度が70%以上であった。 1 課題の達成度が70%未満であった。	4	基礎力タイムの取り組み姿勢は よい。各種検定の資格取得にも 前向きに取り組む姿勢がみられ るようになった。		
	○進路目 標の明確 化	・「総合的な探究の時間」を 活用して、進路に関する情報取 集に取り組ませる。 ・進路指導課と連携し、イン ターンシップの事前・事後指 導を行う。	4 進路目標が明確になった生徒が80%以上であった。 3 進路目標が明確になった生徒が70%以上であった。 2 進路目標が明確になった生徒が60%以上であった。 1 進路目標が明確になった生徒が60%未満であった。	3	インターンシップや職場見学等 年間を通してすべての行事が中 止となってしまい、例年よりも情 報提供が少なくなったが、担任、 進路課の面談を通して進路目標 が定まってきた。		
三 学 年	○進路実 現	・個別面談を1学期に実施し、 進路目標を明確にする。 ・達成までのスケジュールを 明確に伝え、意識と実践力を 高める。 ・保護者との緊密な連携	4 進路実現が100%であった。 3 進路実現が90%であった。 2 進路実現が80%であった。 1 進路実現が70%であった。	4	就職については全員内定し、進 学は受験中である。進路決定に おいては保護者との連携がとれ、 生徒もSPIや面接指導など意欲 的に頑張った。引き続き、進路未 決定の生徒については、きめ細 かい進路指導をしていく必要があ る。	・新型コロナ感染症拡大の 状況の中で、進路実現10 0%は生徒、先生共に全 力で取り組んだ結果が出 ていると感じた。 ・今後の活躍を期待し たい。 ・高校最後の年が充実で きていっていると感じている。	A
	○無遅刻・ 無欠席を 目指す	・不注意による遅刻をなくす。 ・体調管理と心を整えること を心掛け、欠席をなくす	4 学期ごとの無遅刻・無欠席が学年で50%であった。 3 学期ごとの無遅刻・無欠席が学年で40%であった。 2 学期ごとの無遅刻・無欠席が学年で30%であった。 1 学期ごとの無遅刻・無欠席が学年で20%であった。	4	年間を通して、無遅刻・無欠席 については50%以上であった。進 路決定後も、進学・就職共に落 着いた学校生活を送るようそれ ぞれが努力した。		
業 務 改 善	学校の組 織等						B
	○組織的 な学校運 営(職場 の一体 感)	・各分掌等の通常業務にお いて、組織的な実践を意識し て取り組む。	4 職場の一体化、情報共有がなされ協働体制が90%以上確立された。 3 職場の一体化、情報共有がなされ協働体制が80%以上確立された。 2 職場の一体化、情報共有がなされ協働体制が70%以上確立された。 1 職場の一体化、情報の共有が不十分で、協働体制が70%未満であった。	4	生徒の情報共有は定期的に行 われており、様々な課題に対 しても役割を分担して取り組む ことができている。分掌業務も滞 りなく進められており、ホーム ページの更新も多く教員の投 稿により更新できており、協 働体制が推進されている。	・時間外の取扱いに困難 性が多いことは理解でき るが、できる限りの絶え間 ない改善は必要である。 ・学習指導のみならず、多 岐にわたる業務の取組と 改善を実践しており、生 徒達の見本となっている。 ・生徒たちは先生の事をよ く見ている。言葉には出 さないが感謝していると思 う。	
	○職場の 良好な環 境づくり	・職場の整理整頓を基本に、 業務のスリム化、仕事の改善 を図り、効率的な業務を行う。	4 職場の整理整頓、仕事の改善が90%以上なされた。 3 職場の整理整頓、仕事の改善が80%以上なされた。 2 職場の整理整頓、仕事の改善が70%以上なされた。 1 職場の整理整頓、仕事の改善が70%未満であった。	3	職員室の整理整頓は実践でき ている。時間外在校等時間の縮 減、年休等の取得も着実に進 んでおり、職場の雰囲気も明る く良好な状態が保たれている。		
	○勤務状 況	・新しい出勤管理システム の利用を促進するとともに、 「勤務時間の上限に関するガ イドライン等」を共有し、個々 に在校等時間を把握すること の意味を周知することで、業 務の効率化及び業務改善に 向けた意識啓発を行う。	4 ICカードを利用した勤務時間の把握に取り組んだ教員が100%であった。 3 ICカードを利用した勤務時間の把握に取り組んだ教員が90%以上であった。 2 ICカードを利用した勤務時間の把握に取り組んだ教員が80%以上であった。 1 ICカードを利用した勤務時間の把握に取り組んだ教員が80%未満であった。	3	教員のICカードの利用率は9 0%以上となっているが、記録 忘れが多いのも現実である。利 用の着実な定着に向けて意識を 高める取り組みを進めていき たい。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

[学校運営]

・本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りの地域連携行事を実施することは難しかったが、前向きに検討して、きるところから実施することが出来た。来年度もこの流れは大きく変わらないと考えるが、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、できる範囲を拡大していく事が課題である。

・ホームページの新着情報の更新を年間を通して継続することが出来た。また、緊急メールの活用も進めることが出来た。学校だよりの配布範囲の拡大し、地域や中学校に対する情報発信は充実できている。その成果として、学校評価アンケートでは高い評価をいただいた。今後、緊急メールを活用した保護者への情報発信を推進させていきたい。

[学習指導]

・相互授業参観、授業評価を実施し、授業改善に取り組んだ。数々の教科において、グループワーク、ICTを活用した授業改善が図られ、一定の成果が得られている。今後は施設設備の充実に伴い、さらにアクティブ・ラーニングを推進させていきたい。

[生徒指導]

・「西市高校・西市分校に入学して良かったと思える学校生活の実現」を重点目標に掲げ、クラスと仲間を大切にすることで目標の達成を目指して取り組んだ。1学期の「嬉しかった言葉の木」、2学期の「実りの木」の作成はクラスの雰囲気や和ませ「思いやりの言葉」「感謝の言葉」を引き出すことができた。今後は、これらを日常の会話に生かすことを課題として取り組みたい。生徒会と連携して取り組んでいる「先言後礼の挨拶」も意識付けはできたので、今後は、実践力を向上させることを課題として取り組みたい。今年度も、生徒は進路の夢の実現に向けて充実した学校生活を送れたように思われる。

[進路指導]

・年度の前半は新型コロナウイルス感染拡大により、キャリア教育の行事を全く行うことができず、また後半は、就職試験の一月後ろ倒しに加えて、Web試験を実施する企業への対応等、過去に例を見ない異例づくめの1年間であった。しかし、厳しい状況の中、3学年を中心に全教員の力を結集して、無事卒業予定者全員の進路を確定することができた。

[健康安全環境]

・受診生徒を医療につなげるために、生徒自身の健康意識が高まるような個人面談(保健指導)の実施や家庭への協力依頼を行ってきたが、依然として受診率は低い水準となっており、さらなる取組が必要である。

[生産流通科]

・地域連携については、食品製造班がキャラクター作成などを手掛けた。校外での活動についてはほぼ実施できない状況ではあるが、新型コロナへの対応が未知数なので、慎重にならざるを得ない状況である。農林事務所との連携についてはヤングファーマー養成研修を実施。今年度から農業系列を選択した生徒のみ参加なので、選択授業の時間内に行動できるよう計画を変更した。地域連携や外部農業関連機関との連携について、来年度以降どのようにかかわっていくのか検討が必要である。

[業務改善]

・風通しの良い、和やかな職員室の雰囲気を作ることができている。また、会議等における定期的な情報交換並びに日ごろの職員室での情報交換も行われており、教員の協働体制は推進できている。今後も、新型コロナウイルス感染症対策等、今まで経験のなかった状況によるストレスがかかる場面が継続していくと考えられるので、教員のストレスの削減対策の充実を図ってきたい。

・在校等時間の縮減、年休の取得日数の増加等、教員の働き方改革は着実に進んでいる。適正なワークライフバランスの実現や時間を意識した働き方など、教員の働き方に対する意識の変化を感じることができている。来年度はクラス数の減少による教員数の減少が控えているので、さらなる学校行事の見直しや、業務改善に取り組んでいきたい。

[学年]

1年次: 自主的に行動できるように事前に今後の予定等を伝えることで、自主的に行動できるようになった。しかし、移動後の行動において友達という場面が多くその場の状況に適した判断がまだ不十分であったため、自主的行動と自主的に状況を判断できるように指導していく必要がある。基礎力の定着では、10分間集中して各自が行うことはできたが、その学んだことの定着が十分でなかった。振り返りを十分に行うとともに、苦手意識の克服のために学習の機会を作る必要がある。

2年次: 生活態度は落ち着いている。今後は、進路目標の実現を目指し、LHRや総探の時間を有効に活用していきたい。また、基礎学力の定着が、資格取得の意欲につながるよう引き続き指導していきたい。

3年次: 進路の確定については、就職は年内のうちに100%を達成し、最終的には進学希望者も含め進路実現を果たすことが出来た。遅刻・欠席については、就職の進路内定者は特に意識させ、社会人としての自覚を意欲させる取組を行った。

7 次年度への改善策

[学校運営]

・新型コロナウイルス感染症の影響により、停止している地域連携・地域貢献事業をできるところから再開させていくとともに、山口農業高校西市分校として新たな視点での連携事業にもチャレンジしていく事で、地域に唯一の高等学校として、「地域に愛され地域とともにある学校づくり」を山口農業高校西市分校においても推進させる。

・特別支援教育や地域コーディネーター、コミュニティスクール活動推進員等、外部人材の積極的な活用により、特別支援教育や地域連携の充実を図る。

・本年度と同様に、学校公開や学校Webページや学校だより等のきめ細かな更新を行い、保護者、中学、地域への鮮度と密度の高い情報発信を継続する。また、緊急メールの活用範囲を拡大し、保護者への情報発信を進めていく。

・ICT活用体制の整備と研修等による教員の活用の能力の向上を図る。

[学習指導]

・継続的な取り組みと教員の細やかな指導により、学習習慣が身に付いてきた。今後もこの取り組みを継続することで、基礎学力のますます向上と定着を図る。

・相互授業参観を通しての意見交換や公開授業での感想はとても参考になり、「分かる授業」を実践するのに役立つ。実施時期を検討しながら今後も継続していく。

[生徒指導]

・学校全体で「西市高校・西市分校に来て良かったと思える学校生活の実現」に向けて指導できおり、落ち着いて充実感のある学校生活を送れている。生徒に満足感があり、担任を中心にクラスのまとまり、雰囲気もよいので、重大ないじめ問題も起こらず、生徒は生き生きと諸活動に取り組んでいる。今後は生徒の気づきや意識を日常生活に生かすことを課題として取り組むことで、更に、生徒が生き生きと輝いて活動することで夢の実現に近づく充実した学校生活に導く。

[進路指導]

・3年生の進路については、担任を中心とした個々の生徒に応じた進路指導を行い、ほぼ納得のいく進路決定ができた。来年度以降も、このような状況が続くことが想定されるが、どんな状況であっても、常に最善策を検討しつつ、卒業予定者全員の進路決定に向けて努力する。

・2年生の就職希望者に対し、サポーター面接をとおして県内就職を促す取り組みを行い、一定の成果を上げる。

[健康安全指導]

・本年度の受診勧告生徒の受診率は、まだ半数を満たしていない。来年度も未受診者に対し、行動化に結び付ける指導を工夫を継続する。

[生産流通科]

・生徒の学習の場をなるべく多く設けられるように準備を進める。また、稲光農場の管理方法についても学校全体で検討を進める。少人数に対応する農場運営として、一人一人の要望に応じた実習や研究活動が行えるように、さらにきめ細やかな対応体制の確立を目指し系列内で検討を行う。また、次年度から2年間、山口県農業高等学校教育研究会の学科別研究会・生物生産部会の事務局となるため、十分な活動ができるよう校内の連携を推進する。

[事務]

・施設設備の日常点検・定期点検の制度を向上させ、着実な応急措置を行う。

[学年]

・3学年は、概ね1・2年次生の手本となるべく節度のある校内生活を送っていたが、学校行事等で上級生らしいリーダーシップを発揮してほしい。遅刻等においても一部の生徒でルーズな面がみられたので意識を向上させるなど改善の余地がある。

・2年次は、西市分校第1期生であり最終学年として、西市高校の良き伝統を受け継ぎ、すべての学校生活において生徒の個性が発揮できるよう支援していきたい。

・1年次は事前に予定を知らせることで自主的な行動と状況に応じた判断ができるように指導していく。基礎力が身に着くように振り返りの時間と学習する機会と時間の確保を計画的に取り入れる。

[業務改善]

・各業務の複数人担当の徹底や、業務の引き継ぎを意識した取組の推進等により、業務の協働体制のいっそうの推進を図る。

・職場での研修を充実させるとともに、情報の共有化を進め、職員一人ひとりの考えが反映できるような風通しの良い職場環境の形成を図ることで、教員のストレスの軽減を図る。

・ICカードを活用した在校等時間記録の利用率を上げ、実態に即した記録を進め、その記録を振り返る事を通して、教員の勤務時間に対する意識を向上させる。